

# いっほんまついせき 一本松遺跡

遺跡名 一本松遺跡

調査場所 今治市山口(旧朝倉村)

委託者 愛媛県今治地方局

調査主体 (財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

調査期間 平成18年度：平成19年1月4日～3月20日

平成19年度：平成19年10月22日～1月31日

調査面積 1,140m<sup>2</sup>

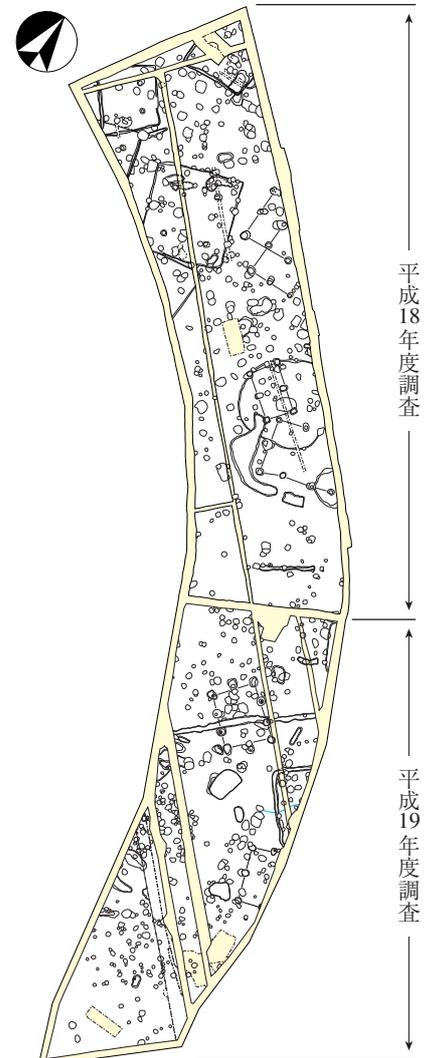
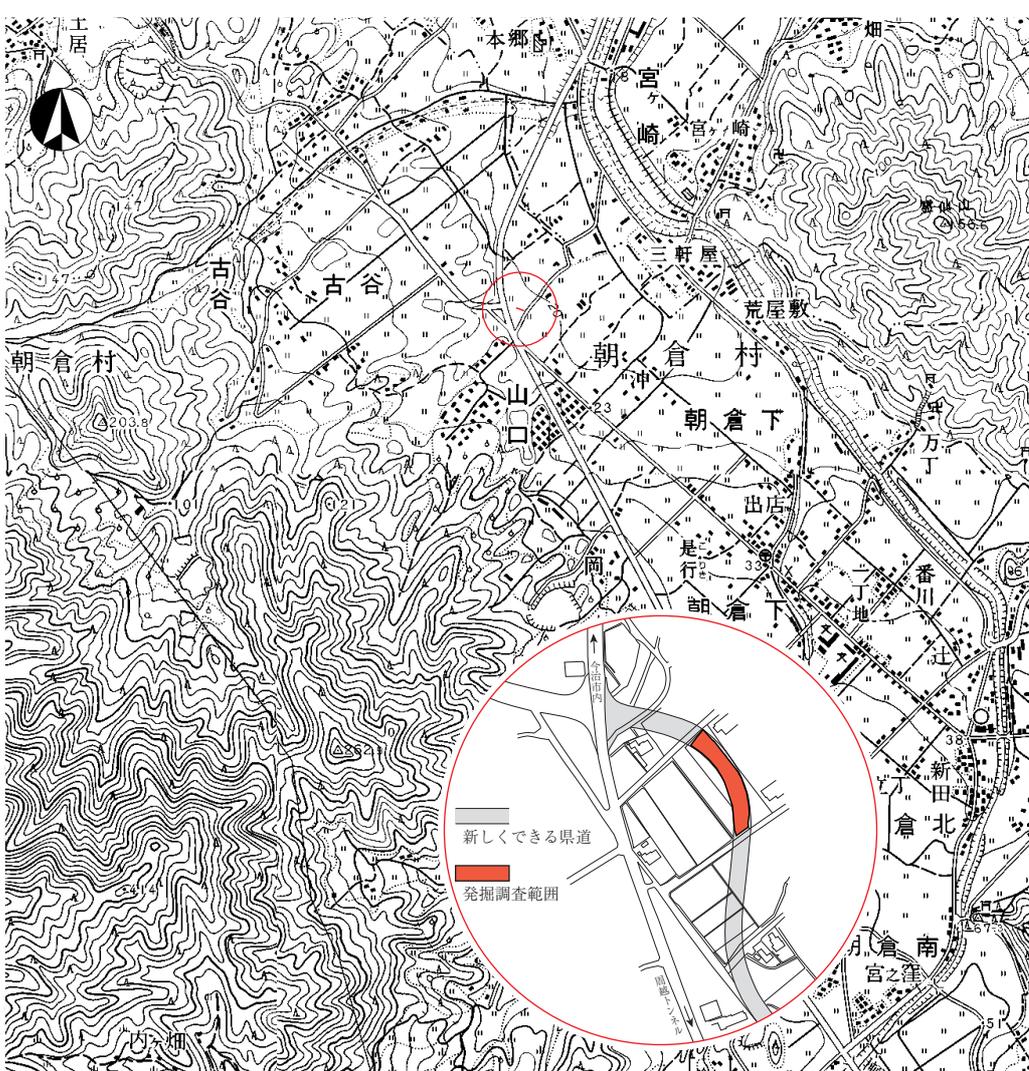
一本松遺跡の発掘調査は、一般県道今治丹原線の建設工事に先立って、平成18年度と平成19年度の二ヶ年に分けて実施しました。

調査の結果、弥生時代中頃(約2000年前)と古墳時代中頃(1500年前)の遺跡であることがわかりました。遺跡からは、家や溝・柱穴など人々の生活のあとがたくさん発見され、当時ここにムラが営まれていたと考えられます。

弥生時代の家(竪穴住居)は上から見ると丸い形で、家の中からは弥生土器や石器などが発見されました。また、いらなくなった土器などを捨てたゴミ穴(土坑)もいくつか見つかっていて、これらの中には、分銅形土製品というお祭りに使われた道具も捨てられていました。

古墳時代の家(竪穴住居)は上から見ると四角い形で、遺跡の北の方で5棟が見つかっています。一辺4mくらいが普通の大きさですが、中には一辺7mもある特大サイズの家(SI5)もあります。家の中からは土師器や須恵器などが発見されました。家以外にも倉庫(掘立柱建物)なども見つかっています。家や倉庫どうしが重なり合っているとところもあるので、何回か建て直して長い間人々が住み続けていたと考えられます。

一本松遺跡に人々が住んでいた時代は、すぐ近くにある一本松(根上松)古墳が作られた時代と重なるので、一本松古墳はもしかすると、一本松遺跡の村長の墓であったのかも知れません。





古墳時代の竪穴住居 (SI13)



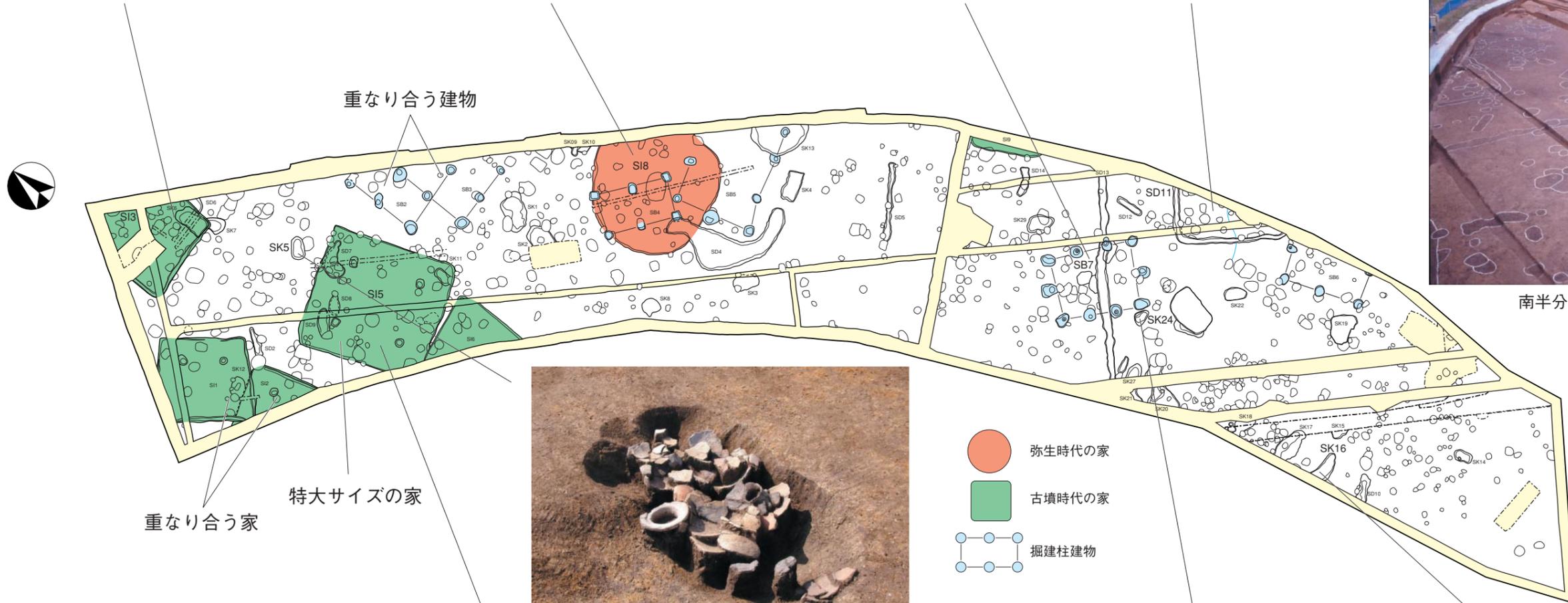
弥生時代の竪穴住居 (SI18)



古墳時代の掘建柱建物 (SB7)



古墳時代の溝 (SD11)



南半分(今年度分)の掘る前の状況



捨てられた弥生土器 (SK5)

- 弥生時代の家
- 古墳時代の家
- 掘建柱建物



捨てられた弥生土器 (SK24)



捨てられた弥生土器 (SK16)



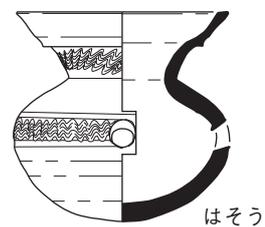
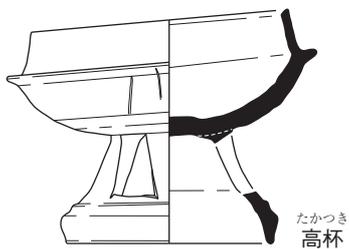
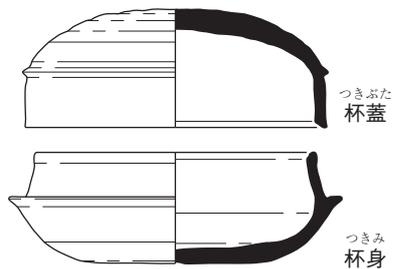
北半分(昨年度分)が掘り上がった状況



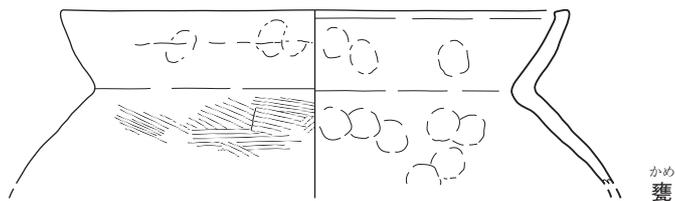
古墳時代の特大サイズの竪穴住居 (SI5)

# 一本松遺跡で見つかった主な遺物

## 古墳時代の遺物

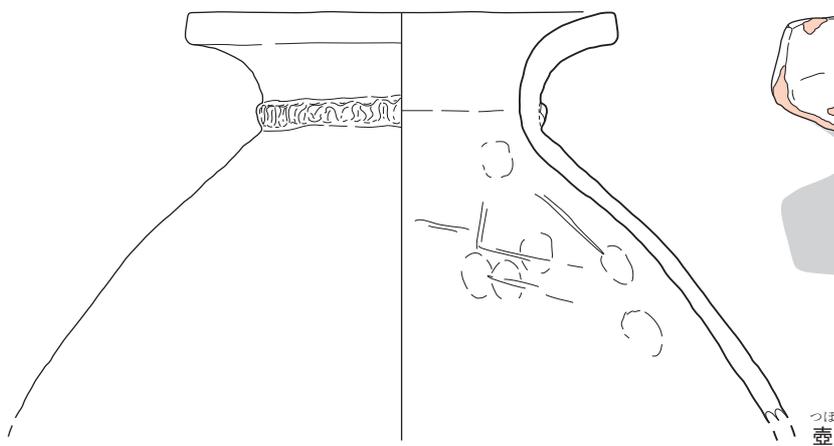


すえき  
須恵器

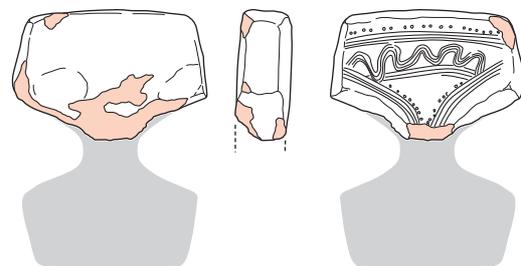


はじき  
土師器

## 弥生時代の遺物



やよいどき  
弥生土器



メモ